ID：0070

2009年度開講科目

調査実習概要報告書 */*

2010年4月27日

科目担当者氏名	科目担当者連絡先（メールアドレス）
（ふりがな） あなみ　とおる 阿南　透	
連絡責任者氏名	**科目設置機関名**
（ふりがな） あなみ　とおる 阿南　透	江戸川大学 社会学部/メディアコミュニケーション学部

授業科目名	科目認定番号	受講者数
社会調査演習（人間社会学演習） 社会調査実習（人間社会学実習）	EDGa-091501-2 EDGa-091502-2	3

Ⅰ．調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：問題設定、調査計画の作成、質問項目の作成とワーディング、調査実施、集計、分析の総ての作業を学生が企画し実施した。当初、高校生と大学生の比較を行う予定であったが、高校でのアンケート実施が不可能になり、急遽大学だけの調査に変更したため、スケジュールの遅れが生じた。このため分析については、一応の結論を出すことはできたものの、時間不足で必ずしも十分な分析をすることができなかったほか、質問項目の不足も明らかになった。このため分析後に調査票を再考させることで、「あるべき調査の姿」を学習させ、不備を補う指導を行った。

Ⅱ．調査の企画・設計（デザイン）

1．調査のテーマ／領域：携帯電話の利用に関する実態・意識調査

2．調査の内容／概要：携帯電話を中心とする電話の利用実態と意識について、大学生を対象に調査し、その実態と特徴を明らかにする。

3．調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：学生名簿からサンプリングする無作為抽出の方法を学習した上で、対象者は有意抽出とし、実際には授業の履修者を対象に行った。この結果152の回答を得た。

4．主な調査項目：携帯電話を初めて持った時期、主な用途、持ってからの交友関係の変化、１日の通話時間、１日のメール件数、１ヶ月の使用料、各種機能の利用実態、契約形態、購入時の着目点、ファッションアイテム意識の有無、ストラップ・着メロ・ケータイアレンジ等の利用、依存度の認識等。

Ⅲ．データ収集の方法と結果

5．データ収集（現地調査）の方法：授業時に質問紙調査を集団実施した。

6．調査の実施時期・調査地・調査員の数：2009年10月29日と11月12日に江戸川大学の「民俗学２」「マスコミュニケーション史」の授業で実施した。調査員３名。

7．収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：有効回収票152、回収率78%。当日は欠席者がおり、サンプリングを含めて問題点の多い調査となったが、どこが問題かを学生に周知徹底した上で分析作業を行った。

Ⅳ．データ分析の方法と結果

8．データ分析／解釈の方法：データは数量化し、度数分布表を作成し、クロス集計を行った。そこで得られた知見を基に、より詳細な分析と考察を試みた。

9．調査の成果（調査から得られた主な知見など）：男女の違いは、通話ではほとんど見られず、メール使用に大きな差が見られ、また携帯電話への「依存度」という主観的評価にも差が見られた。また携帯電話をファッションアイテムとして意識する者は、一般的な機能やストラップ、シールにではなく、着メロやケータイアレンジの利用に特徴が見られた。

10．報告書刊行の予定と概要：予定していない。

＜記入上の注意点＞ 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/*」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。